



ヘイケボタル号

《私が子どもだった頃》 川町内会 源波 修一郎

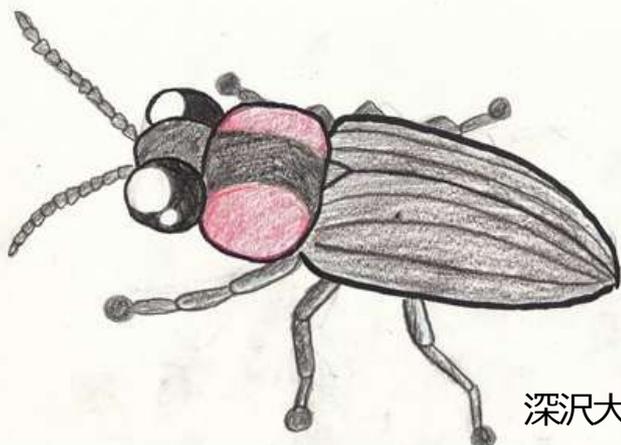
私は昭和19年に生まれ、昭和20年ころから40年以上、侍従川の近くの西大道で生活していました。20年くらい前に引っ越して、現在は六浦に住んでいます。これから、私の子どもの頃の思い出を書きたいと思います。

【侍従川は生きものがいっぱい】

昭和20年ころの侍従川の上流は、シミズガニやハヤ、山椒魚さんしょうおなどが生息する清流でした。夏には、ゲンジボタルも多く飛んでおり、たくさん捕まえて蚊帳かやの中に放して楽しんだものです。今から思えば、ずいぶん風流ふうりゅうな生活をしていましたものだと思います。

侍従川は、蛇行だこうしていて護岸整備も十分でなく、自然の土手によって守られていたため、台風など大雨の時は、しばしば川が氾濫ごがんせいびして床下浸水ほんらんを起こしていました。西大道に大堰の水門があり田植えの時期にせき止めた時には、堰の上流の水たまりは水深2mほどとなり、水泳や木材や竹などで組んだイカダを浮かべて水遊びができました。しかし、現在のように下水道の整備せいびができておらず、生活雑排水ぞつはいすいをそのまま侍従川に流していたため、衛生的えいせいてきには良くなかったと思います。

また、堰の下流には滝壺たきつぼのような深みがあり、夏には、ウナギやフナなどの夜釣りをして楽しみました。



深沢大地

ヘイケボタル (平家螢)

学名 : *Luciola lateralis*

ヘイケボタルの名前は平安時代の平家から由来しています。

ゲンジボタルより発光が弱いため源平合戦に負けた平家に例えられたようです。

幼虫は田んぼや湿地で育ちます。そのため、現在はゲンジボタルより少なくなっている地域が多いようです。

侍従川流域ではわずか1カ所で細々と生き残っています。

解説 : 佐野真吾

土手の穴にはウナギが^{ひそ}潜んでいました。竹の棒にタコ糸と釣り針をつけて、ミミズを^{えさ}餌にして穴の奥まで差し込むとウナギが良く釣れました。天然のウナギなので、^{かばや}蒲焼きにすると大変おいしく、また、^{ぜいたくかん}贅沢感を味わっていました。

侍従川の周辺は田んぼが多く、現在の大道中学校も田んぼで、よく秋の^{いねが}稲刈り前にイナゴを取りに行き、^{かんろに}甘露煮にして食べたものです。

【夜中の朝比奈切通の肝試しと鐘つき】

毎年、^{おおみそか}大晦日になると友だちを連れ立って朝比奈の切通をカンテラをさげて、鎌倉の建長寺の鐘をつくために歩いて行きました。カンテラは、^{かんづ}缶詰めの空き缶にローソクを立てて灯りとしたもので、今の懐中電灯のようなものです。夜の10時ごろに西大道を出発して12時過ぎに建長寺に到着しました。夜中の切通は真っ暗で肝試しを兼ねていました。まだ朝比奈峠の道路が^{みせいび}未整備でしたので、鎌倉に行くためには、逗子を回るか朝比奈の切通を通るしかありませんでした。除夜の鐘を突いたあとに、鎌倉八幡宮に^{はつもうで}初詣をして元旦を過ごしました。

【里山は子どもの遊び場】

子どものころは、学校から帰るとカバンを^{げんかん}玄関に放り投げ、すぐさま野原にみんなが集まり、ソフトボールで日が暮れるまで泥んこになって遊びました。試合中に野原の近くの家にボールが飛び込んで、窓ガラスを割ったことがよくありました。その時は怒られましたが、^{ゆる}どこかで許してくれた、おおらかな時代でした。

^{そうきやま}雑木山に隠れ家と称して、大きな木の中段に木や竹を^{かづら}蔓で組んだ山小屋ふうの建物を作り、蔓にぶら下がってターザンごっこで遊んだり、雑木をナイフで^{けず}削って刀を作ったり、チャンバラごっこで遊んだりしました。また、^{たけやぶ}竹藪から竹を取ってきて、^{みずでっぼう}竹馬や水鉄砲を作って遊んだり、正月用の^{かどまつ}門松を作ったりしました。

当時は、^{にもの}ご飯や^{にた}煮物はかまどで煮炊きし、お風呂は^{ごえもんぶろ}五右衛門風呂でしたので、杉の葉や薪を山から取ってきては、^{こづか}お小遣いをもらっていました。薪で炊くご飯のおこげは美味しく、なつかしい思い出になっています。また、薪で沸かすお風呂は、お湯がやわらかく、体の芯まで温まりました。現代の温泉地にある^{ろてんぶろ}露天風呂に入っているような気分でした。

つづく

トピックス

◎5/10(金) 大道小学校侍従川
清掃が行われる。

(長橋、細川、西澤、村田、外川、
山田が対応)。



侍従川流域におけるヤマアカガエルの産卵調査(2013)



ヤマアカガエル

ヤマアカガエルは1月から3月頃にかけて田んぼや池、水溜りなどに卵を産みます。かつて侍従川流域ではいくつか産地がありましたが、最近激減しています。

今回は前年の調査結果と比較してご紹介します。

表. 侍従川流域におけるヤマアカガエルの産卵状況(2013)

日付	地名	♂の個体数	♀の個体数	卵塊数	確認者名	備考
20130209	大道小学校			1	山田	
20130216	朝比奈小学校	2		12	佐野	
20130303	朝比奈小学校	1	1	58	佐野	新たに46卵塊増えた。
20130310	朝比奈小学校	1		58	佐野	
20130311	大道中学校裏山農地			4	佐野	
20130311	朝比奈切通し入口湿地			7	佐野	
20130428	侍従川本流大道橋付近				深沢	幼生を1個体確認



朝比奈切通し入口



朝比奈小学校



侍従川本流大道橋付近 幼生

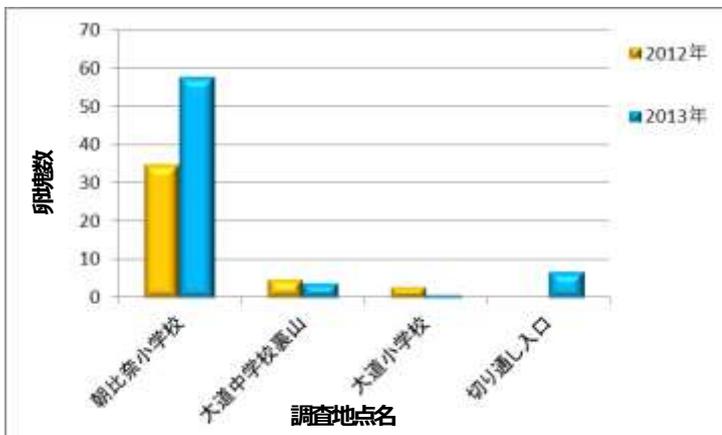


図. 2012年との比較

朝比奈小学校はビオトープを造りなおしたことで卵塊数が増えましたが、他の産地は減少傾向にあります。なお、切り通し入口に関しては、前年の調査不足からなる結果だと思われます。また、侍従川本流では幼生が見つかりました。まだ見つからない産卵ポイントがあるのかもしれませんが、今後も引き続き調査をしていきたいと思ひます。

学生部

3月定例クリーンアップ

【活動報告1】

3月24日(日) 9:00~12:00 曇り 9℃

朝比切り通し下~大道東橋(ゴミ拾い)

細川一雄

参加者:長野政治、長橋輝明、西澤博厚、石渡博、八木場紀元、角田繁、村田章夫、
外川忠志、高木之靖、北村 肇、細川一雄(計11名)



大道橋上流の清掃(小さなゴミも見逃しません)



大道橋下(大量のゴミが散乱しています)



回収した24袋のゴミ、キヤリアー、パイプ、傘など

2月までの寒さが嘘のように3月は暖かい日が続きました。その為、歴代で2番目に早く桜が満開になり、ちとせ園の2本の桜も綺麗に満開になりましたので作業終了後ちとせ園で花見をする事にしました。暖かくなり木の芽や草が伸び始めましたがまだ刈り取るほどではありませんので、今回もゴミ拾いのみ実施することにして下流グループと源流グループの2組に分かれて作業を開始しました。

源流域は相変わらず金物や電気製品、ガラスの破片が多く落ちています。川の上から落ちてきたと思われるトタン板はそのまま上に投げ上げました。また、テレビのブラウン管らしきガラス部品も回収しました。金之橋迄で土嚢袋が一杯になりましたので、予備の袋を使って回収作業を続けます。

作業の途中、長野さんが自転車でゴミ袋を回収してくれましたので大変助かりました。また、ちとせ園にゴミ袋を集めていると外川さんが応援に来てくれましたので、車でゴミ袋を県営住宅跡地まで運んでもらいました。今回は非常にゴミが多く土嚢袋で24袋分回収しました。また、長靴が2足水漏れしているというので、一緒に捨てさせてもらいました。来年度予算で長靴を購入します。

第27回横浜の水辺と緑を考える子ども会議

【活動報告2】

3月31日(日) 上大岡小学校

柴田早智

3月31日に大岡小学校で、第27回よこはまの水辺と緑を考える子ども会議が行われました。今年のテーマは「いなくなりそうな生き物をみんなで知って守ろう」です。私は初参加ではありましたが、1月からの実行委員会から子どもたちのサポートをさせて頂きました。

午前中の自然会議では、「農薬を使う人」「虫を助けたい人(農薬を使うことに反対の人)」

「虫の気持ち」の3つの立場に分かれて討論をしました。その立場になりきり、意見を戦わせていきます。会議の時間は2時間。終わる頃には、まだまだ話し合いたいという気持ちもあれば、もうヘトヘトな表情も。低学年の子どもたちには難しい言葉もあったかもしれませんが、一生懸命考えているように感じました。高学年や中学生の意見、振る舞いに憧れを抱くことができたのではないのでしょうか。私は子ども会議の今までの様子が分からない分、実行委員会の時から自分のすべきことがよくわからず困惑していました。子どもたちに助言をしたいと思うものの、言いすぎると私の意見になってしまう・・・という葛藤は当日まで続きました。口出ししすぎるのは良くないけれど、「こんな流れにしたい」という計画が頭にあると、余計なことまで言ってしまいそうです。

午後は弘明寺商店街でワークショップを行いました。侍従会は生き物の展示を行いました。参加団体同士で見合ったり、商店街を通る地域の方々に見てもらったり・・・なんだか学習発表会みたいでしたね。大人も子どもも、好きなものや好きなことについて語る姿は魅力的だなあ・・・なんて思いました。そして勉強になりました。とても充実した一日でした。来年はさらに良い子ども会議ができるように、頑張っていきたいですね！



☆☆☆連載コラム☆☆☆

私子どもだった頃番外編 ～クモ～ 高桑正敏

いまの私はクモが大の苦手である。しかし子どもの頃はそうでもなかったらしい。ジグモ採りが好きだったからである。今でこそジグモを見つけるのは大変かもしれないが、当時はマサキなどの垣根の根元にいくらかでも巣があった。その長い袋状の巣をそっと引き上げるのである。途中で切れてしまえばダメだが、大物が出てくると興奮したものである。

ホンチと呼ばれるハエトリグモの1種もつかまえた記憶がある。マッチ箱に入れ、小学校に持って行っては教室でほかの子どもたちが持ってきたホンチと争わすのであるが、私はそれほど熱中しなかった。

家を建て直してからはまったく見なくなりましたが、それまではアシダカグモの恐怖？を感じていた。夜になって寝ようとするとき、天井や障子、襖を這うときの「カサコソ」というわずかな音が聞こえると、あの巨大なアシダカグモが出たことがわかる。もし顔の上に落ちてきたら、顔の上を歩かれたら、と考えると恐ろしくなってしまう、布団を頭までかぶせたものである。

4月13日(土) 好天の中、春の草摘みと野草料理が行われました。

参加者は大人5名、大学生2名、中学生6名、小学生8名、幼児3名の計27名でした。

草摘みは 朝比奈(金井さん地所と森さん地所)の二か所で行いタンポポ、ノビル、アザミ、ツリガネニンジン、ユキノシタ、タラの芽、セリ、オランダガラシ(クレソン)、ヨモギが子ども達それぞれのビニール袋に収穫されました。

何度も体験している子は ヨモギ団子が沢山食べたい!とヨモギを摘んだり、てんぷら~♪と ユキノシタを沢山摘んだり、、、楽しみながら参加していました。

毒草レクチャーも同時に行われ、間違えやすいものは見分け方も教えていただきました。

でも、セリとムラサキケマンは花が無かったら分からないなあ。。。。イタドリは酸っぱくてさわやか、グミはちょっと渋かったけど、いい体験でしたね。

そして、お料理は テンプラ(タンポポ、ツリガネニンジン、ユキノシタ、アザミ、タラの芽)ノビルは醤油味噌和え(超美味!）、葉っぱは水餃子に、セリはキムチ和え、クレソンはペペロンチーノ、ヨモギはお団子、、、になり、作るそばからみんなの胃袋に♪♪

楽しくて、美味しくて、嬉しい一日でした。

名コックさんの皆様、ありがとうございました!!

今から来年が楽しみです^^

野草料理の感想

二年生の時から毎年参加しています!今回は今まで教えてもらった野草のことをちゃんと復習してから行きました。逗子の友達と一緒に参加出来て良かったです。ペペロンチーノや天ぷら、キムチ和えや水餃子など例年のメニューだけでは無く肉団子も美味しかったです。(深沢大地)

野草を採るのが楽しかった。やまちゃんのスパゲッティが美味しかった。(深沢明里)



4月定例クリーンアップ

【活動報告4】

4月28日(日) 9:00~12:00 晴れ 20℃

源流(朝比切り通し下)~大道東橋(ゴミ拾いと草刈)

細川一雄

参加者：長野政治、長橋輝明、西澤博厚、村田章夫、石渡博、八木場紀元、角田繁、石塚正夫、鳥越昌三、鳥越典子、鳥越珠貴、鳥越龍、山田陽治、佐野真吾、柴田真穂、深沢大地、高橋一太、長崎光則、細川一雄(計19名)

新年度に入って初めてのクリーンアップです。暑くも寒くも無い非常に良い季節になりました。総勢19名と多くの方が参加してくれましたので、今回は全域に亘ってゴミ拾いと上流部の草刈り作業を行いました。また、伸び始めたセイタカアワダチソウの引き抜き作業を随時実施しました。前回同様子どもたちは大道東橋から大道橋までの清掃作業。大人たちは源流域から大道橋までの清掃と朝比奈橋から青木橋までの草刈り作業を行いました。

源流域には珍しく2本の傘が落ちていました。いつもは金物や電気製品が多かったのですが…。川に光が当たるように上を覆っている枝を切り、セイタカアワダチソウを引き抜きながら下流に向かって進んでいきます。

青木橋上流で他のメンバーと合流して草刈り作業をしていると、下流から清掃作業をしてきた子ども達が応援に来てくれたので大変助かりました。彼らには、刈り取った草を橋の下に持ってってもらい、乾燥した後に回収することになりました。11時30分過ぎに草刈り作業を終了し、セイタカアワダチソウの引き抜き作業と清掃作業をしながらちとせ園まで戻り12時頃に作業を終了しました。大分暖かくなりましたのでちとせ園で喉を潤おして解散しました。



源流域の藤の花



地藏前橋下流の草刈り後



橋の下で一休み



回収した10袋分のゴミ



作業の合間のひと時(鳥越龍君と。何か良い物が採れましたか?)

学生部新入歓迎遠足

【活動報告 5】

4月29日（月・祝） 葉山町上山口

深沢大地（中1）

今年も新入歓迎遠足が行われました！

新逗子からバスで現地まで行って自己紹介と現地の人の挨拶が終わったら、早速虫採りスタートです。

みんな狙う生き物が違う事もあり、すぐにバラバラ…遠足じゃないじゃん！って感じです。

奥まで探検に行く人も川に入った人も真剣に写真を撮ってる人も…

そしてチョウを追いかけてたりしてみんなお腹がすいてきたころ、僕と荒牧さん、ミツツー、サノシンは川沿いの道を上流に向かって歩いていました。その時！先頭にいたサノシンがアッ！と声をあげました。三人が急いで駆け寄るとスゴい！ダビドサナエ(サナエトンボの一種)の3連結です！みんなに自慢しに行く途中、山田さんグループと合流。養蜂体験をさせてくれるとの話です。現地の人にハチに刺されない為のネットの着方を教えてもらいました。

なかなか出来ない事なのでみんなカメラをかまえるのですが、なかなか近づけません。でも怖いのは最初だけ！女王バチを探したり、ハチミツを舐めさせてもらったり楽しめました。ハチミツは濃厚で凄く美味しかったです (^o^)/

お昼を食べて次の場所に移動しました。ちょっと歩くけど、しりとりをしたり鯉のぼりの魚当てクイズをしたりしながら行きました。

色々な生き物が採れて、これから侍従会の学生部として活動していくメンバーの絆も深まったようなので、いい1日になったと思います。来年も是非参加したいです。



フレンドまつり

【活動報告6】

5月11日(土) 11:00~14:00 大道小学校

寺尾勝廣

今日は5月11日(土)。朝から雨…。ひどくは降っていないが雨…。社会福祉協議会の主催で大道小学校で開催される『六浦西地区フレンド祭り』の当日である。

侍従会はトンボ池で駆除を兼ねたザリガニ釣りを開催することになっていたのである…。

子ども達が集まるのだろうか…？ 来ても楽しめるのだろうか…？ との不安がよぎる朝でした。更に、現地に到着すると大道小学校伊藤先生からまたもや不安な情報提供。

『1年生の子どもたちがザリガニ釣りをしたけれども4匹しか釣れなかったよ。』

『ゲッ…63人で4匹…(-_-;)』

昨年、池の整備をした効果が出たのは喜ばしいことだが、今日のイベントとしてのザリガニ釣りを考えると、なんとも複雑な心境でした。

池の籠から、1cm程度の子ビザリガニから親ザリガニ6匹程度を客寄せパンダならぬ「客寄せザリガニ」としてト口箱に展示。実は屋根のある場所に置いて、釣り堀にして楽しんでもらうように配置をしました。

実際にスタートすると心配をよそに客足は良く、60~70人近くはチャレンジしてくれましたが、新たに釣り上げられたのは4~5匹しかいませんでした…(-_-;)。

試みとしては、一人当たり2~3匹を釣り上げてもらって夢中になってもらえたらな~と思っていたのですが、実は全く別のことで子どもたちは楽しんでくれたようです。

それが何かというと、『雨カッパを着て釣り糸を垂らしている子』『傘をさして釣り糸を垂れる子』『傘を放り投げて釣り糸を垂れる子』。ここぞとばかり濡れることを気にせず楽しんでるように見えました。

これも、良い思い出になったでしょう。

長橋さん、西澤さん、角田さん、細川さんフォローありがとうございました。



5月12日(日) 天候不良が心配されましたが何のその!の晴天に恵まれ、野島公園潮干狩り&生き物観察会が行われました。

参加者大人29名、大学生1名、中学生4名、小学生16名、幼児15名の計65名…うち家族参加は17家族でした。



まずは山田さんから侍従川の注ぐ野島海岸の説明と潮干狩り(松葉釣り、マテガイ捕り)レクチャーがありました。

待ち切れず自己紹介はなしで早速皆砂の中~水の中の人に。

しばらく掘って、、、いない。そのためか開始後しばらくは子ども達は貝掘りよりも生き物探しに夢中になっていました。

そうこうしているうちに潮はどんどん引いて行きます。

少し沖に出た所に沢山の人だかりが出来ていたのでそこに行って掘ってみる。

んん??石ころかな?と思い拾い上げてみると、、、なんと全部貝ではないか!!!テンション↑親指も↑!!!

大きいのはそれほど多くはないが、まさにお宝ザクザクでした。

生き物捕りをしていた子ども達も皆一時貝掘りに没頭。

捕れた貝はアサリ、シオフキ、バカガイ、マテガイ、カガミガイ、ツメタガイとなかなか種類豊富。

各自昼食の後、干潟の生き物水族館設営、アサリの水質浄化実験、アラムシロガイの補食実験を山田さんの解説でして頂き、皆お待ちかねの貝の試食タイム!茹でて食べ比べ&アサリとマテガイ、ツメタガイはバター炒めにもしました。

一番人気は…アサリ、カガミガイ、マテガイ、ツメタガイ…と人それぞれ。

貝のきれいな子もおいしい!と言って食べていました。(大人にはほとんどまわってきませんでした↓)

自然の恵みに感謝する一日でした。



5月侍従川大そうじ

【活動報告8】

5月26日(日) 10:00~12:00 晴れ

潮見橋~二の橋(下流班)、二の橋~朝比奈橋(上流班)

細川一雄

参加者：32名(子ども：13名、大人：19名)

当日8時30分に倉庫から長靴・土嚢袋・幟・軍手などの資材を運び出し、9時前に大道小学校に持ち込みました。9時頃に順次集まって来たスタッフのミーティングを行い準備作業を行います。

10時に実施責任者の細川から注意事項等の説明を行った後、上流班と下流班に分かれて各活動場所に移動しました。生き物の多い下流には多くの子ども達が同行し、上流は大人達がメインの構成になりました。また、参加者が残っていた荷物を車に詰め込みちとせ園まで運びます。

2週間ほど前の5月10日に大道小学校の全校生徒が川に入り掃除をしましたので、当初それほどゴミは多くないだろうと思っていましたが、大きく重いごみが沢山回収され、持って移動できずに途中で川から上げて作業を続行しました。

川の近くを通りがかりに捨てるようなゴミではなく、意図的に川に廃棄するために自宅から持ってきたと思われるようなゴミが多く、川をゴミ捨て場と思っている様な人が多いことにがっかりします。

11時40分頃になると、ちとせ園に上流班が到着し始め、12時頃になると下流班も到着し始めました。侍従川の自然をたっぷり体感して満足した表情で帰って来た子どもたちには少し融けて柔らかくなったアイスクャンディーとジュースとお菓子をプレゼントしてしばらく休憩してもらいました。同様に大人達には、缶ビールで喉を潤おしてもらいました。しばらく休んだ後、数人の人たちが帰ってしまいましたが、残った参加者で県営住宅跡地に移動し記念写真を撮って解散しました。

大道小学校の先生方やOBの徳丸さんが九州から参加(お孫さんを伴って)してくれたり、多くの方のご協力が無事終了できました事をご報告すると共にお礼申し上げます。



注意事項等を説明



潮が引いた川の中を作業中



下流班全員で記念写真



高橋下流付近



甲羅干し中



蟹も捕まえました



青大将抜け殻



ぢいぢも満足顔？



蟹と亀を両手に持って！



カルガモのひな
(9匹確認)



休憩後残った参加者で
記念写真
子供たちはびしょ濡れ
でした！！

生き物発見記録

- ・ 3月30日 侍従川で魚とりをしました。長島橋～明戸橋間は工事の影響でまったく魚が採れませんでした。山王橋～二の橋間は今まで通り採集できました。
(長崎・深沢・柴田・高橋・佐野)
- ・ 4月13日 侍従川水系のアサヒナカワトンボについて。常林寺の沢で初めて橙色翅型のアサヒナカワトンボが見つかりました。(野草パーティ参加メンバー)
- ・ 4月28日 侍従川本流でヤマアカガエルの幼生を発見。
(深沢大地)
- ・ 5月2日 蛍谷戸で3個体のダビドサナエを目撃しました。今まで生息地が謎に包まれていたダビドサナエでしたが、ここ数年の調査でようやく分かってきました。
(佐野真吾)
- ・ 5月2日 蛍谷戸でヒメマイマイカブリを発見。
(佐野真吾)
- ・ 5月12日 ツマグロスジハゼを野島で採集。侍従川流域で初記録。採集者：深沢大地
- ・ 5月28日 中流 二の橋～山王橋間 ミナミテナガエビ侍従川で初記録。(佐野真吾)



侍従川生き物図鑑 No.20

～ ヒゲコメツキ ～ (コメツキムシ科)

学名 : *Pectocera fortunei*

体長 : 28mm

分布 : 侍従川源流域の山林

和名の由来になっている枝別れした立派なヒゲは♂だけの特権で、これは♂が体から出す臭いを頼りに交尾相手を探す昆虫(ガ、ベニボタルの仲間)に見られる特徴です。5月ごろから活動する本種は侍従川流域の昆虫の中では珍しい種類かもしれません。



(2008年 5月 撮影)

琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～

～ リュウキュウハグロトンボ ～

学名 : *Matrona basilaris japonica* Forster 体長 : ♂64ミリ、♀62ミリ

分布 : 沖縄本島、渡嘉敷島、奄美大島、徳之島

沖縄島北部で湧き水や溪流などで比較的多く見られるハグロトンボで♂の羽の付け根が裏表鮮やかな青色をしているのが特徴です。♀は羽の先端に白い点があります。早い時期では2月から見られる種で、沖縄のトンボの中ではシーズンを問わず周年姿を見ることができます。



オス…今帰仁村 9月



メス…今帰仁村 5月



幼虫(ヤゴ)…国頭村 2月

監修 : 熊井 (沖縄在住)



だより

大道村活動計画

「大道ふれあい むかし資料館」(旧歴史資料館)の改良作業が続いています。2013年10月5日の大道小学校創立70周年式典に合わせてリニューアルオープンが予定されています。第2・第4土曜日の午後に活動していますので是非、おたずねください。

どなたでもご参加になれます。

武州金沢学(地域の歴史・生き物・地質)講座を開講しています。

7月20日(土)・8月17日(土)は、「侍従川の生き物を知ろう」というテーマで、会員の「佐野 真吾」さんのお話とフィールドワークを予定しています。ぜひ参加してください。場所は、大道ふれあいむかし資料館(大道コミュニティハウス2階)午前中の活動です。

大道よもやま話(16:00~17:30)



特集:わたしたちのまちの昔の^{むかし}仕事や^{しごと}産業を^{さんぎょう}テーマにして続いています。

5月の「塩づくり」を皮切りに、8月24日(土)「むかしの林業」・11月23日(祝)「むかしの醤油づくり」・2月22日(土)「みなとまちの旅籠」を予定しています。こちらへの参加もお待ちしています。

昔体験スクールも楽しいよ

6月 8日(土)「金沢の今のまちをジオラマにあらわそう」
(10:00~15:00)

8月24日(土)「涼もう」(手回しかき氷機を使おう)
(13:00~15:00)

10月13日(日)「おもちつきをしよう」(臼と杵と蒸籠)
(10:00~12:00)

12月21日(土)「わらで正月飾りをつくろう」(縄ない機)
(13:00~15:00)

2月 8日(土)「暖まろう・量ろう」(囲炉裏・天秤量り)(13:00~15:00)



主催: ふるさと大道の風景をつくる会

連絡問い合わせ先 金沢区大道 1-47-12 相川澄夫 045 701-6870

佐野真吾が語る侍従会の思い出 ～忍者の修行道～

2003年、中学3年の冬です。受験が終わっていた私は、この日も山田さんとフィールドに出ていました。場所は横浜・鎌倉・逗子をまたぐ朝比奈の森です。「今日は滝の上の湿地に行ってみませんか?」「おいしいよ!サノシンもあの湿地のことよく知ってるねえ!」「以前ウチのじいちゃんに教えてもらって行ったことがあるんですよ!」「ほほ~じゃあ行ってみようか!」こうして二人は“滝の上の湿地”に向かったのです。

さて、滝の上の湿地とは何処のことなのか?と言うと、朝比奈切り通しにある“三郎の滝”のさらに上流にある湿地のことです。少し歴史の話をする、当地は鎌倉時代の武将、朝比奈三郎義秀が一夜で切り開いたという伝説から朝比奈切り通しという名で滝にも三郎の名前が付けられています。一夜で切り開いたという伝説につっこみどころはありますが、朝比奈三郎は、かの有名な和田義盛と巴御前の子どもと言われその血統からもそんな伝説が生まれたのかもしれませんが。

話は戻り、三郎の滝をよじ登ろうという人はあまりいないと思うので、滝の上に広い谷戸があることを知る人も多くありません。しかし、少し回り道をして藪の中を進むと滝の上の谷戸に出られるのです。湿地は非常に広く底なし沼のような状態でした。そしてその谷戸をさらに遡ると昔使われていたのであろう道の跡があり、そこには小さな休憩場のような小屋のあとと三猿の石碑があるのです(現在は小屋の跡は完全になくなってしまいました)。



「あの湿地は田んぼの跡ですよ!もう少し昔に行ってみたかったですよね。」「そうだねえ!今は周りが藪だし知る人はほとんどいない場所だけど、大昔はちゃんと道として使われていたんだろうね!学生部初代部長の飯村くんから聞いたんだけど、10年前にはまだイモリがいたらしいよ!」「ホントですか?まだ何処かに残ってないかなあ~」そんな話をしながら二人は湿地に向かいました。しかし、歩いていると突然山田さんは道から外れて藪の中に入り始めたのです。「山田さんどこ行くんですか?」「あれこの道知らない?この道行くと三猿まで一直線なんだよ!」...そこはどう見ても道ではなく藪でした。しかし、道(?)の入り口の藪をかき分けると、杉林があり、谷上になった地形には確かに昔の道跡らしき様子がありました。

「子どもの頃、よくここで忍者になるべく修行したんだよ！（笑）ナイフをクナイみたいに投げてちゃんと刺さるように練習したり（笑）朝比奈の森はよく来たなあ～。帰りが暗くなって弟と弟の友達を抱えて走って帰ったこととかあったなあ～（笑）」「なるほど！ではこの秘密の抜け道は山田さんの忍者の修行道なんですね！」「そうだよ！！（笑）」。確かに忍者は子どもの憧れです。私も子どもの頃は忍者に憧れてシャベルを投げてクナイの真似をした記憶があります。

というわけで、ここは上忍“山田お頭”に従い、私も修行道を体験させていただくことにしました。忍者の修行道は基本的に杉林ですが、所々木が倒れて丸太のようになっています。「山田さん？この丸太は変わり身の術に使えますね！」「うん！そうだよ！！」と、二人でふざけながら進みました。こうして進むとあっという間に三猿の石碑に着き、湿地の目の前に出ました。「これは早いんですね！こんな道があったんだあ～！」その後二人は湿地でホトケドジョウを観察したり、クワガタを採ったりしながら1日を終わりました。

話は現在に戻ります。2013年の冬、私は久しぶりに滝の上の湿地に行ってきました。湿地は湿性遷移が進みだいぶ乾燥化しています。またかつてあった道の跡や忍者の修行道も藪に覆われていたり、崖が崩れて道が塞がれていたりしましたが、鎌を持っていったので少しは切り開いてきました。

先にも書いたように朝比奈の森は横浜市・鎌倉市・逗子市をまたぐとても大きな森であり、たくさんの歴史を抱えた場所です。そして普通にハイキングするだけでは見つけれない秘密の道跡がまだまだたくさん存在します。身近にこんな森が残っているのは素晴らしいことです。好奇心を湧き立たせられますよね？☆是非皆さんも探検しに行ってみてはいかがでしょうか？

『佐野真吾が語る侍従会の思い出』 つづく

朝夷奈の森通信 ～森の忍者より～ 飯村優介



ゼンマイ



ウド

アサミガタケ



侍従川定例調査報告 学生部

4月28日(日) 晴れ

調査者：小野田家2名、片岡家2名、鳥越家4名、飯村、
長崎、深沢、柴田、高橋、金澤、佐野、山田

記録：柴田真穂

【諏訪の橋～大道東橋】(下流)

ミシシッピーアカミミガメ1、クサガメ1、チチブ3、
ウロハゼ3、マハゼ2、クサフグ3、ボラ4、ユビナガ
スジエビ4、テナガエビ5、クロベンケイガニ1、イシ
マキガイ20、コウロエンヒバリガイ10、マガキ10

【大道東橋～山王橋】(中流)

ウキゴリ1、メダカ3、イシマキガイ2

【山王橋～二の橋】(中流)

ミシシッピーアカミミガメ1、チチブ6、ウロハゼ3、
ウキゴリ14、スミウキゴリ7、シマヨシノボリ3、メダ
カ3、ミゾレヌマエビ3、ハグロトンボ幼虫22、コシボ
ソヤンマ幼虫5、ミレンヤンマ幼虫3、ヤマサナエ幼虫
6、シオカラトンボ幼虫1、イシマキガイ3

【二の橋～大道橋】(中流)

ウキゴリ6、スミウキゴリ3、ウナギ(目撃)、モクスガ
ニ1、イシマキガイ3

※卵塊を保護しているハゼ類の個体数はカウントしてい
ません。

ハゼ類の調査報告は6月に行うチチブ調査が終了次第まとめて報告します。

【備考】昨年まで生物が多かった大道東橋～山王橋間は激減した。工事の影響であると考えられる。しかし、他のポイントには大きな変化はみられず生物も健在である。

今まで大道東橋付近でしか確認されていなかったイシマキガイが各所でみられた。生息の幅が広がっている。



朝比奈小学校でアサヒナカワトンボ橙色翅型が復活

アサヒナカワトンボ

アサヒナカワトンボとは、川の源流域や上流域に生息するカワトンボの1種です。和名はトンボ学者である朝比奈博士に由来しています。成虫は4月頃から6月頃に現れます。オスのハネにはいくつかの型があり、それは地域によって異なります。侍従川流域では透明翅(ハネが透明な個体)と橙色翅型(ハネがオレンジ色の個体)の2型が出現します。しかし、橙色翅型の個体は生息地での個体数が少なくなると出現しなくなると言われています。



アサヒナカワトンボ♂
(橙色翅型)



アサヒナカワトンボ♂
(透明翅型)



橙色翅型
アサヒナカワトンボ♂の顔

朝比奈小学校とアサヒナカワトンボ

朝比奈小学校では、以前から透明翅型のアサヒナカワトンボが生息していました。しかし、その数はとても少なく、2001年5月を最後に記録が途絶えていました。また、2009年と2010年に調査をしましたが、やはり発見できず、朝比奈小学校のアサヒナカワトンボは絶滅してしまったと考えていました。しかし、2011年5月に1匹(透明翅型♂)が再発見されました。そこで、アサヒナカワトンボを含むたくさんの生きものが好む、日当たりの良い開けた空間を増やすために樹木の伐採活動を始めました。

樹木の伐採

「樹木の伐採というと自然破壊なのではないか？」と思われがちですが、里山環境を維持するためには必要なことです。人と生きものはずっと昔からこうして一緒に暮らしてきました。里山環境に生きる生きものたちは、里山が樹木におおわれて暗くなってしまうと住めなくなってしまうのです。今回朝比奈小学校では、アオキ・シロダモ・ヤツデといった植物を中心に伐採しました。

ついに橙色翅型が出た！！

2013年5月5日、私が朝比奈小学校の谷戸に足を踏み入るとすぐに2匹のアサヒナカワトンボが出迎えてくれました。透明翅型のオスでしたが、伐採作業によって確実に増えてきたことを感じました。さらに谷戸の奥に向かうとオレンジ色のハネが舞いました。「橙色翅型だ！」。これまで調査をしてきて、この場所で橙色翅型を見るのは初めてです。先にも書いたように、数が減ってしまうと橙色翅型は出現しなくなると言われています。ということは確実に増えている証拠です。そしてこの日は橙色翅型オス2匹、透明翅型オス4匹、メス1匹を確認しました。これからが楽しみです。



(記) 佐野 真吾



虫のきょういく座談会

～最初いつもケンカからスタート?～



参加者：みっつー・だいちゃん・佐野

1年ほど前の夏の話である。その日、筆者佐野は2人の小学生を車に乗せて走っていた。その二人の小学生とは、当時小学校6年生であった“みっつー”と“だいちゃん”である。ジュニア探検クラブの最上級生となった2人は後輩たちを指導する立場(?)に成長していた。

みっつー「最近の小学生は問題児ばかりなんだよ！まったく！」

だいちゃん「問題児はみっつーじゃん！笑」

みっつー「うるせえ！！笑 サノシンも小学生の頃は問題児だったの？」

佐野「いやいや当然優等生だったよ！笑」

みっつー・だいちゃん「ええー！！」

こんなふざけ合いの会話から座談会は始まった。



みっつー (小4当時)

だいちゃん「侍従会の子もって最初はだいたいケンカから始まるよね！笑」

みっつー「俺と大地(だいちゃん)も最初仲悪かったけどいつのまにか仲良くなったよね！

俺たち二人は次の侍従会学生部の2トップエースなのだ☆ ハッハッハッ☆」

でも確かに言われてみると侍従会の子どもは、ケンカからスタートした子は、後から仲良しになるパターンが多い。大人目線から見ると、あの時はあんなに仲悪くていつもケンカしていたのになぜ??と不思議に思うくらいである。

だいちゃん「サノシンとみっつーもよくケンカしてたよね？」

笑」

佐野「ケンカって表現おかしいだろ！笑」

みっつー「そうそう☆最初サノシンと出会った頃は、俺は虫を採ったり標本にするのは反対派だったんだよ！

だからよくケンカしてたなあ～☆」



だいちゃん (小4当時)

だいちゃん「みっつーはよくサノシンに向かっていろいろ叫んでたよね！笑」

佐野「なんか俺とみっつーが対等に戦ってるみたいで納得いかないんだけど！笑 いやでも観察会でたくさんお客さんがいる中で、当時小学2年生だったみっつーに「虫殺しー！」って叫ばれ続けたのは相当大変だったよね！笑」

みっつー「ガッハッハッハ! まあまあ! ポンポン (みっつーは佐野の肩をたたく) 笑 ブ
シッ! ぐあぁっ! (みっつーは佐野のパンチをくらう)」

佐野「いやでも二人ともずいぶん大人になってきたんじゃない! こんな話ができるように
なるとは思ってもなかったからなあ~笑 みっつーも最近声変わりして背伸びたし
なあ~ だいちゃんも後輩たちのフォローしてくれるようになって助かるようにな
ったし!」

侍従会で出会い、当時は子どもだと思っていた子たちも、時間が経てばいつのまにか対等
な仲間になっていく。現在大学生のまいちゃんや高校生のカネゴンもいつのまにか仲間と
して付き合うようになった。みっつーやだいちゃんも今年は中学生である。彼らを含む元
気で存在感の強い現在の学生部世代とはこれからも楽しいことをたくさん考えていきたい
と思う。 (おわり)

事務局だより

事務局運営委員 長橋 輝明

◆6月~9月の活動予定◆

☆定例クリーンアップ 6/23(日)、7/28(日)、8/25(日)、9/22(日)

9時~12時 ちとせ園集合 ※雨天延期・翌週日曜

☆8/3(土)、4(日) ジュニアキャンプ in 野島 (詳細は決まりしだいお知らせします。)

☆9/14(土) ハゼ釣り大会~秋の恵みの採取

〈学生部の活動〉

☆ホタルプロジェクト~ホタル調査

7/6(土)まで 19:00~20:30...毎水土曜日

☆夏期合宿の詳細は別途お知らせします。

◎活動の詳細 (集合時間・場所、
持ち物など) は、ホームページ
をご覧ください。

<http://jijyukai.web.fc2.com/>

■2013年度会費納入のお願い

4月から新年度になりした。新年度分の会費の納入を6月中にお願いいたします。現
金での支払いは間違いのもとになりますので必ず郵便局払込票で支払ってください。

口座記号番号: 00230-5-68634 加入者名: ふるさと侍従川に親しむ会

年会費: 大人 3,000 円 大学生以下 1,500 円

ふるさと侍従川に親しむ会 事務局 長橋 輝明

TEL&FAX: 781-4042 e-mail: jr-nagahashi@seaple.icc.ne.jp

◀編集後記▶ 今回は、スタイルを少し変えてみましたが、いかがだったでしょうか?

学生部の活動が充実していて頼もしい限りです。今後の活躍が楽しみです。(MK)